

三和の里ふれあいマップ（見学説明書）

A みずいしやましぜんこうえん 水石山自然公園

合戸[ごうど]、みずいしやま(標高 735m)の頂に、窪みのある巨石(高さ 4m外周 3m)があり、古くから窪みの水がなくなると、雨が降ると云われている。

昭和 28 年福島県立自然公園指定、眺望、開放感あり、昔、行楽地として大いに賑わいを見せた。駄賃稼ぎ・馬の放牧は、昔の話。

B しんでん おおやまさくら 新田の大山桜

下市萱[しもいちがや]の雨降山*1の南にある新田[しんでん]へは、小峠越え、ようやくたどり着く。せせらぐ音に耳をすますと、おや?この鳴き声は…。

昭和 54 年いわき市指定保存樹木(57 番)のヤマザクラ(高さ 16m幹周 4m)で推定樹齢 400 年、一斉に開花する様は、壮麗。

C しあみだいら どうぼだいら くりばやし 塩見平(道場平)の栗林

上市萱[かみいちがや]の「宿」を抜け、旧街道(旧国道 49 号線)をしばらく往くと、石塔・石仏*2群を眺め、長沢峠の「一杯清水」から、さらに歩を進める先、雨降山(標高 770m)の北、上三坂[かみみさか]の「宿」への峠を越えるあたり、推定樹齢 200 年の芝栗(幹周 1m)群生林がある。

D しだれくりせいち 枝垂れ栗自生地

上三坂[かみみさか]作田[さくだ]水田[みつた]地区集会所の裏山には、墓地の周囲に、枝垂れ栗が多数散在自生している。

日本栗の変種、樹形珍しく、古くから信仰心と結びつき、保護されてきたという。

昭和 31 年福島県指定天然記念物、古株の樹高 3m、枝張り 6mほど。

E しばやましぜんこうえん 芝山自然公園

上三坂[かみみさか]しばやま(標高 819 m)は、古殿町、平田村、いわき市の境界に位置し、美化協会により山開き(花合会)が催される。裾野には牧野が拓かれ、草を食む牛馬を横目に登山(遊歩)も楽しめる。

空気が澄んでいる厳冬期には、日本一高い富士の姿も眺望できる?「ふくしま緑の百景」

F わたつみじんじゅ 綿津海神社

上三坂[かみみさか]本町[もとまち]に 1200 年前建立の、わたつみ(海神)さま。

境内には、片栗が自生している。鶯鳴く頃咲くため、法華経花とも呼ばれるが、可憐、愛おしく映るその姿は、まさに妖精のよう。

同じころ、二輪草もみられるが、自生の北西限といわれるから、これも大切にしたい。

G ふくじゅそう 福寿草

下三坂[しもみさか]街道筋には南側に面した土手を持つ屋敷多く、斜面に丁寧な仕事を施された入合[いりあい]の家主がいる。

ふくじゅそう(元日草、朔日草とも云う)は、その名のとおり、福と寿(しあわせ)と春(1~3月)を呼ぶ花で、真白な雪のなかに咲く黄色い花は、希望をもたらし、格別。

H たね さくら 種まき桜

下三坂[しもみさか]日向[ひゆうが]・永久保[ながくぼ]の丘の上に墓地を見下ろす孤高のエドヒガンザクラ。

もともと、開花のころ作物の種をまく謂れから名づけられたとか…

平成 18 年いわき市指定天然記念物、樹高 15m、幹周 5m、推定樹齢 200 年。

I とうないだき 藤内滝

三坂[みさか]川は、下三坂[しもみさか]から差塩[さいそ]下りに落差 15mほどの滝(とうないだき)がある。

流れ落ちる飛沫は、周りの渋木が紅葉の頃には、見事なコントラストを描くことだろう。

昔、遠足に入ったというのも、十分、肯けるが、今、往来が崩れており、隠れた名所。

三和の里ふれあいマップ（見学説明書）

J さいそしづけん 差塩湿原

差塩 [さいそ] 堀添 [ほりぞえ] 地内には、遺存植物（鷲草、朱鷲草、大苦菜、毛氈苔、水土賊、鷲菅、睡菜葉）ら貴重種や危急種の自生湿原。

氷河期の生き証人とも云われ、生態学的に重要なところとして、展示保全されているが、近年、その様相が危ぶまれる。

K さいそややとうさんじゅうさんかんのんれいじょう 差塩良々堂三十三観音霊場

差塩 [さいそ] 良々堂山 [ややどうさん] は独国和尚が「西国まで足を運ばぬとも三十三観音参りできるように」開山、御本尊模した石像の下には、持ち帰った土が入れてあると云う。堂屋の石上には十六羅漢が鎮座する。

鬱蒼とした林地内は、足元に十分気を付けながら、一行一巡には、2時間ほど要する。

L ガロ山^{やま}のアカヤシオ、イワウチワ

下永井 [しもながい] 軽井沢 [かるいざわ] には、赤八汐、岩団扇を眺望できる峨廊山 [がるやま] と呼ばれるところがある。

赤八汐は、岩躑躅 [いわつつじ] の一種で、越境地を流れる夏井川溪谷にも多く見られる。岩団扇は、「春の使者」と謂われ、山岳地帯に見られる絶滅危惧種である。

M ながい さいばいち 永井のそば栽培地

主に上永井 [かみながい] で栽培され、収穫の前（初夏・晩秋）には、田圃一面が白い花に包まれ、幻想的。

築200年余の「農家そば屋」で振舞われる「いわき高原そば」、春の山の幸の天婦羅、地の葱などとともに、ぜひ、味わいたい。

（要予約）

N ふないし もり 船石の森

上永井 [かみながい] 高戸 [こうど] の森の中に、大きな御影石がある。

周りには、小さな石が点在し、これを波に見立てると、大海原の浪間を往く船のようにみえることから、この名がついたと云われる。

広葉樹の森は、生き物の棲み処であるが、自然の模す様に、なぜ、人は夢みるのだろうか。

問題1. 「雨降山」なんて読むでしょう？

問題2. 実は、この石塔・石仏模した(ジオラマ)展示施設がありますが、どこでしょう？

問題3. 巨石のあるところは、「一本山毛櫨」と書きますが、なんて読むでしょう？

諏訪神社（下市萱）は、大同元（806）年信濃国諏訪大社より建御名方神勧請、坂上田村麻呂が東国平定、戦勝祈願のため建立したとされる。相殿には誉田別命が祀られる。

境内には、御神木の大杉（樹高45m）や公孫樹（樹高30m）がある。

古峰神社（中三坂）は、天狗渡と称する屹立数丈の奇岩の頂にあり、万人畏敬の霊場と語られ、下野国と同じく、古くから鎮座。

稲荷神社（下三坂）境内には、三坂川氾濫に耐え移植された大榎（樹高28m幹周4m）がある。また、近く、中三坂には、寒地原産の榎（一位）もみられる。（いずれも昭和54年いわき市指定保存樹木）

永井神社（上永井）は、大日貴命を祀るとされ、三和神とも云われるが、縁起には諸説ある。近く（軽井沢）に、山の神さまもあり、鼻の長さ80cmの天狗面が奉納されている。

光福寺（合戸 [ごうど] 内畑）には、樹高25mの公孫樹が、地蔵尊（合戸浮矢）には、樹高15mの榎がある。**観音寺**（下市萱片岸）雲月堂には、枝垂れ桜が咲く。

また、渡戸 [わたど] 檜木 [ならぬき] では、「サクジッコ様」と呼ばれる樹高8mの百日紅を、**馬頭観音**脇にみることができる。

中寺 [なかでら] 館下 [たてした] の**薬師堂**には、明治に炭となった本尊を安置する。